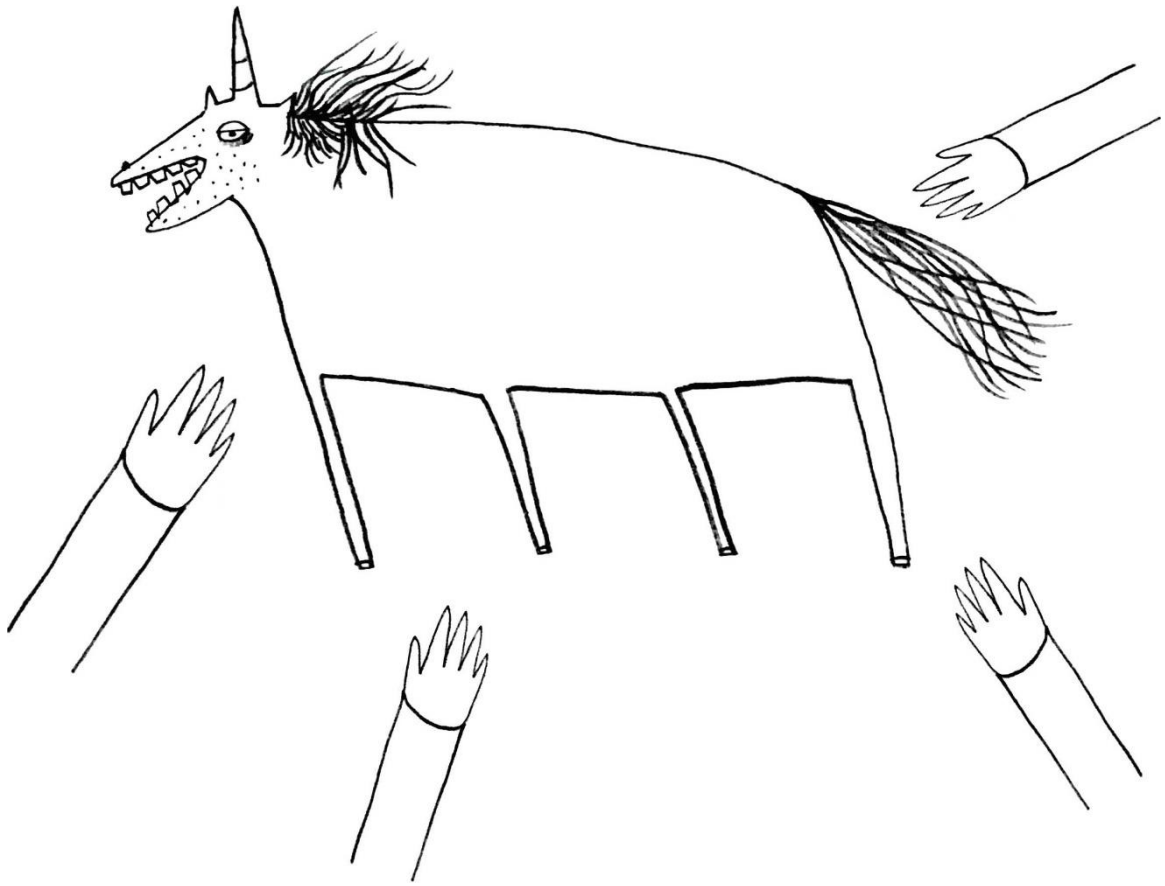


# 存在論と認識論のショートガイド

(誰もが批判的なリアリスト<sup>i</sup>であるべき理由)

A short guide to ontology and epistemology (why everyone should be a critical realist)



トム・フライヤー *Tom Fryer*

翻訳：桂 悠介

初学者にとっては、存在論、認識論、そして全ての社会科学の哲学は迷路となりえる。地図を見ることはできず、どちらに曲がればいいのかほとんどわからない。トム・フライヤーは最近その迷路を通り抜けてきたので、その感覚を正確に覚えています。彼は地図の主な輪郭をスケッチし、あなたの歩みを始められるようにしてくれました。アクセスしやすく、鮮やかに、そして批判的実在論的に。是非とも読んでみてください。

*Dr. Dave Elder-Vass, Loughborough University*

存在論、認識論、実証主義、構成主義、批判的実在論…哲学的な用語に惑わされている人に、本当に役立つガイドです。読むまでは、これらの概念がこんなに簡単に（かつ楽しく！）説明されるなんて想像もできませんでした。

*Ying Yang, University of Manchester*

このガイドは、自分が何を理解していて何を理解していないのかを理解したい博士課程の院生が、自分が理解していることをどのように理解するのかに基づいてさらに理解を深めるためにパーフェクトな一冊です。わかりましたか？

*Bobbie Dutton, University of Manchester*

今度は何のガイドを書いているの？

*私のおばあちゃん、所属なし*

### **存在論と認識論へのショートガイド：誰もが批判的なリアリストであるべき理由**

トム・フライヤー著 桂 悠介訳 2023年

A short guide to ontology and epistemology: Why everyone should be a critical realist

Tom Fryer 2020 [tfryer.com/ontology-guide](https://tfryer.com/ontology-guide)

---

[訳注 i] Critical Realism には批判的実在論、クリティカル・リアリズムなどの訳も定着しているが、原著者の文体の持つ軽快さを残すため、タイトルのみ意図的に批判的実在論者ではなく「批判的なリアリスト」と訳す。

## 共有について

オープンアクセス：一部の権利は留保されています。誰でも書面による許可なく、この作品をダウンロード、保存、実行、配布、翻訳することができます。フォーマットも自由です。

本作はクリエイティブ・コモンズライセンス Deed: Attribution- Non Commercial-No Derivatives 2.0 UK: England and Wales. の条件に従うものとします。

この作品をライセンスでカバーされる目的以外に使用する場合は、著者に許可を得てください。

(※以上は原著での表記ですが、翻訳版もこれに準じます)

## 表紙とデザイン

ジョアンナ・コザック (Joanna Kozak)

## 謝辞

このガイドを実現させてくださった多くの方々にお礼申し上げます。第一に、リスクを冒してこのプロジェクトに資金を提供してくれた Bhaskar Memorial Fund に大変感謝しています。洞察力、提案、編集はボビー、パリス、デイブに負うところが大きいです。また、批判的実在論についての私の話に耳を傾け、その洞察をどのように共有し、あるいは共有すべきではないかを考える手助けをしてくれた、すべての人に感謝しています。素晴らしいイラストを描いてくれたジョアンナにも感謝しています：デザインが重要だということをほぼ 83% 確信するようになりました…

## 目次

<u>Section 1：何が問題なのか？</u>	<u>p.6</u>
<u>Section 2：複雑すぎる物事</u>	<u>p.11</u>
<u>Section 3：実証主義、構成主義、批判的実在論とは何か？</u>	<u>p.16</u>
<u>Section 4：誰もが批判的実在論者であるべき理由</u>	<u>p.24</u>
<u>用語集</u>	<u>p.31</u>

やっほう！

「大学院への進学おめでとう」と言う所から始めさせてください。進学は簡単なことではないし、間違いなく褒められるべきことです。

皆さんが新しいことに取り掛かることに興奮していることを願っています。私も、少し圧倒されると同時に、不安を感じつつ興奮し、意気揚々としているという奇妙に入り混じる感情のこと覚えています。一度にこれらすべてを感じるのは疲れますよね。

だからこのガイドを書きました。このガイドがあなたの生活を少しでも楽にし、研究の中で本当に重要な部分について考える助けになれば幸いです。

私は大金を賭けてもいいと思っています。あなたが、これから数ヶ月の間に「存在論」、「認識論」、「研究のパラダイム」、「哲学的前提」について誰かが言及するのを聞くことになるだろうということに。運がよければ、「規範性」について話す人に出くわすかもしれません。ほとんどの大学では、新入生向けのトレーニングプログラムを実施しているので、これらの用語に出くわすこともあるでしょうし、「実証主義」、「構成主義」、「解釈主義」、「批判的実在論」、「プラグマティズム」、「主観主義」についても時折言及することがあるでしょう。

まず、最初に押さえるべきポイントは、**あなたはバカではない**ということです。

ちょっと違うかな。私はあなたがどれだけ頭がいいかなんて知る由はないし、あなたを鼓舞するような講演者になろうとしている訳でもありません。（そのことは私を知っている人なら保証してくれるでしょう…）

明確にしましょう。色々な用語に惑わされることがあったとしても、**だからといって自分がバカだと思わないでください**。馬鹿げた数の用語があり、馬鹿げた数の方法で使われ、馬鹿げた数の異なるものを指すために使われている。だから、あなたのせいではありません。

こうした状況に直面すると、途端に諦めたくくなります。あなたは論文に使うために、次のようなフレーズを考え出すようになるかもしれません。「私はリサーチクエスションに応える方法論が求められていると信じているので、プラグマティストのスタンスを採用しています」。もしあなたが熱心であれば、Crotty's (1998) *The Foundations of Social Research* を読んで、あなたの哲学的アプローチを、彼の「出来合いの」バージョンから選ぶこともできるかもしれません。

これらのことは決してしないでください。私は普段はメロドラマには弱いのですが「そんなことはやめてください」と膝をついて懇願します。

理由についてのわたしのエレベーター・ピッチ（訳注：簡潔かつ効果的な説明）は以下のようなものです。存在論と認識論を考えないと、存在しないクソを探しに行ったり、目の前にある明白なクソを無視したりする危険性があります。くだらない問いに答えるために、クソみたいな方法を使ってしまうリスクもあります。エレベーター・ピッチにはこうした悪態が必要だと知っていましたか？ #ShitInTheElevator

真面目な話、良い研究をするためには、きちんとした基礎となる哲学を持っている必要があります。

そのため、このガイドは次のことを目的としています。

- A. 自分の哲学的立場について考えることがなぜ重要なのかを示す。
- B. 複雑な用語を理解するためのシンプルなフレームワークを提供する。
- C. 批判的実在論者であるべき理由を説明する。

そのために、私はガイドを4つのセクションに整理しました。

- 1. 存在論について考える意義とは何か？
- 2. 複雑な用語や概念をどうやって理解するのか？
- 3. 実証主義、構成主義、批判的実在論とは何か？
- 4. なぜ誰もが批判的実在論者であるべきなのか？

Happy reading, どうか役立ちますように :)



エレベーターの中のクソ  
ShitInTheElevator

## Section1：何が問題なのか？

さて、存在論と認識論を考える意義とは何でしょうか？ そもそも、存在論と認識論とは何でしょうか？

存在論は、モノ (stuff) についての議論です。世界にはどんなモノがあるのか、それはどのようなものなのかを見ていきます。「世界には何があるのか、何が実在する (real) のか」等の質問も含まれます。私たちは存在論を、ギリシャ語で**存在**と**研究**を意味する2つの単語に分けることができます。というわけで、存在論は「存在の研究」であり、単に「モノについての研究」を、よりファンシーに言い換えただけのことです。

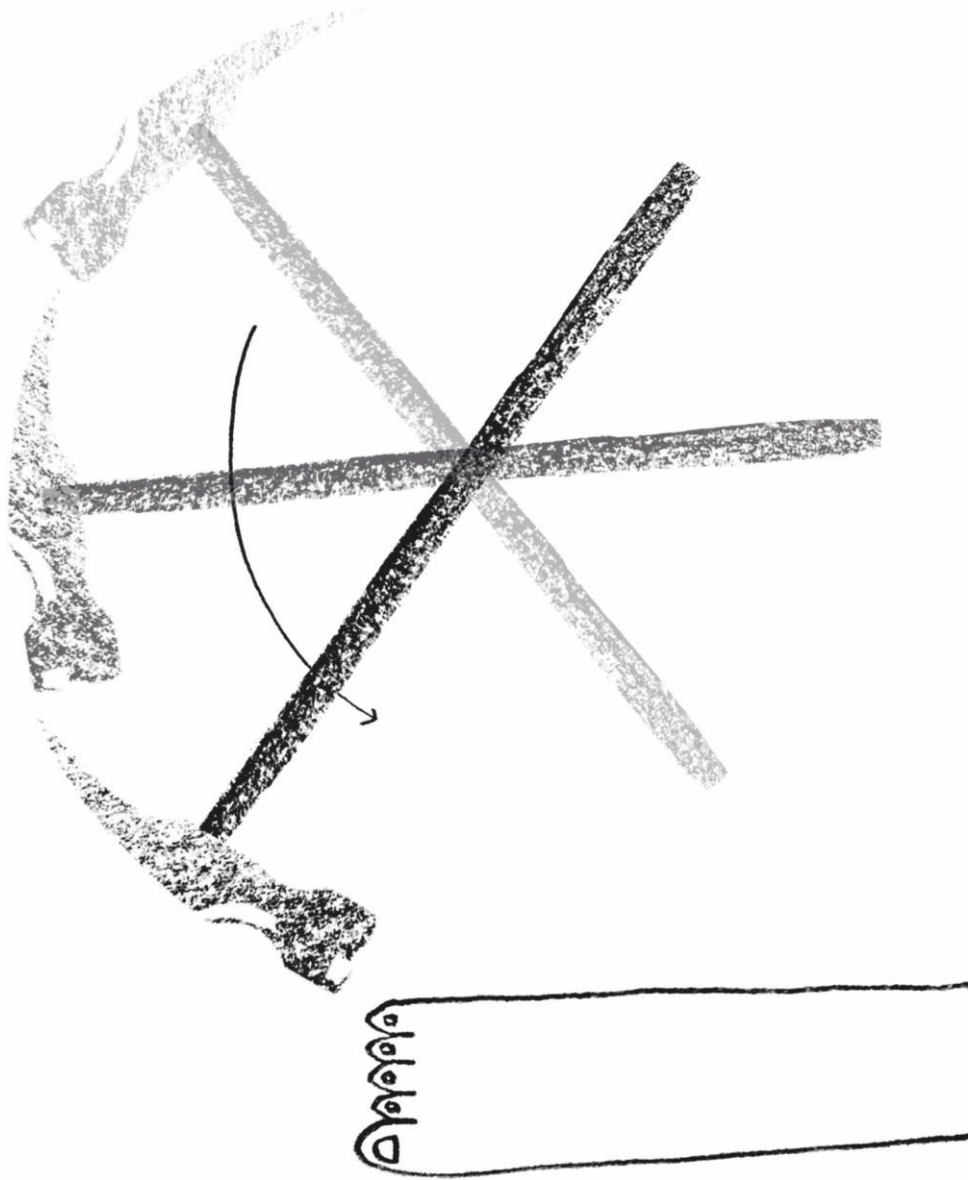
もう一つの重要なキーワードが認識論です。ここでも、言葉の成り立ちを見ることが役に立ちます。こちらは**知識**と**研究**を意味するギリシャ語の単語が使われています。つまり、認識論は「知識の研究」です。「世界はどのようなものであるか」という問いは存在論ですが、認識論では、世界についての知識を、どのようにして生み出すことができるのかということに関心が寄せられます。そこには、良い方法と悪い方法があるのでしょうか？ 私たちの知識はどれくらい信頼できるのでしょうか？

さて、存在論と認識論はいとも簡単に混同されます。この間も「ググらずとも存在論と認識論が何なのかを知っているというなら、100%の確率でお前はアホだ」というツイートを見ました。イタタタタタ… 刺さりますね。しかし、そんなことはありません。違いを覚えるための次のようなバカげた方法があります。

存在論 (ontology) は「つま先学 (on toe logy)」、つまり「つま先 (toe) に落としたものの研究」のように聞こえます。さて、もしあなたがつま先にハンマーを落としたなら、あなたはリアリティ [実在性 reality] について考えることになる保証します。リアルな [実在する real] ハンマーと、リアルな痛みについて考えることになるはずです。決して「どうやってハンマーについての知識を生み出せばいいのだろうか？」などと問うことなく、あなたはそのリアリティ [実在性 reality] に集中するでしょう。それが存在論です。

認識論 (epistemology) は「叙事詩的“茎”学 (epic stem ology)」、つまり「叙事詩的な茎の研究」のように聞こえます。植物学者であるあなたの友人が来て、「おい、この植物の叙事詩的な茎を見てくれ、なんてかっこいいんだ」と言ったとしましょう。あなたの最初の反応は次のようなものでしょう。「これは本当に叙事詩的な茎なのか？ なぜデイブはそれが叙事詩的な茎だと知っているのか？ なぜデイブは奇妙な意見を持っているのか？」。これらはすべて「知識」、つまり認識論に関する問いです。

ちょっとおかしな例えですが、覚える際の手助けになれば幸いです。さて、基本的なところは押さえたので、皆さんが研究でどの存在論と認識論を採用するかを考えるのは本当に重要である、ということの説得に取り掛かりましょう。



つま先学  
On toe logy



"存在論と認識論について考えないと、くだらないプロジェクトで終わる可能性が高い"

わかっています、議論がわかれるところですよ。

存在論が重要な理由はこうです。すべての研究は何かを見つけ出すことを目的としています。自然の普遍的な法則を見つけることを目的としている研究者もいます。物語を集める旅に出る人たちもいます。そして、少数の賢いキャラ達は、傾向性として作用する因果関係のメカニズム（後で説明します）を見つけようとします。

さて、存在論についての不適切な理論に依拠するという事は、存在しないものを見つけるために世界に飛び出す危険性があるということを意味します。あなたの研究は最初から失敗する運命にあります。逆に適切な存在論は、私たちが間違っただけを探すのを止めてくれます。アルディ（私の地元のスーパー）での話を考えてみてください。

私は“中年の危機”に直面していて、フェラーリを買いたいと思っています。私はフェラーリを買うためにアルディに行くことにしました。私はフェラーリを購入したいと思っており、実際にアルディでそれが売っていると思い込んでいる限り、世界の現実には全く影響を与えません。アルディでフェラーリは売っていません。アルディでフェラーリを探すのは馬鹿げています。

誤った存在論的仮定に基づく研究は、将来の中年の危機に直面した私がアルディでフェラーリを探すのと同じくらい馬鹿げている。この世界で何かを見つけようとしても、世界の性質を見誤っていたなら、それを見つけることはできないでしょう。それは当ても無い企て（a wild goose chase）です。実際には、野生のガチョウ（wild goose）は存在するので、野生のユニコーンを追いかけるようなものです。

適切でない存在論があなたを間違いの道に引きずり込む別の方法もあります。今度は、存在しないものを探させるのではなく、私たちの間違っただけの理論が世界の大きな塊を無視させてしまうのです。もう一度、アルディに行ってみましょう。

「私はニンジンが大好き。にんじんスープ、にんじんマッシュ、オリーブオイルとローズマリーを少々加えてローストしたもの。うまい、うまい、うまい♪おなかの中で、中で、中で♪」。私は、ニンジンを常にアルディで買っています。実際、私がアルディで買うのはニンジンだけです。ちょっと変だけど、それでいいんです。でも、もし私が友人たちに「アルディが売っているのはニンジンだけだ」というと、それは間違いです。私はアルディが売っているものの全体像や、ニンジン以外のすべてのものを見落としていることになります。アルディはすべてを売っているわけではないが、ニンジンだけではないことは確かです。

この妄想に憑りつかれたニンジン・マニアは、ネタとなる物語を探すための調査と同じようなものです。ニンジンには何の問題もありません。物語を集めることも何も悪いことではありません。これまでの学術研究で無視されがちだった人の話を聞くというのは、実際に極めて重要な研究になり得ます。この種の研究が問題になるのは、世界には物語以外に何

もないと仮定したときだけです。アルディが売るのはニンジンだけではなく、世界は物語だけではないのです。

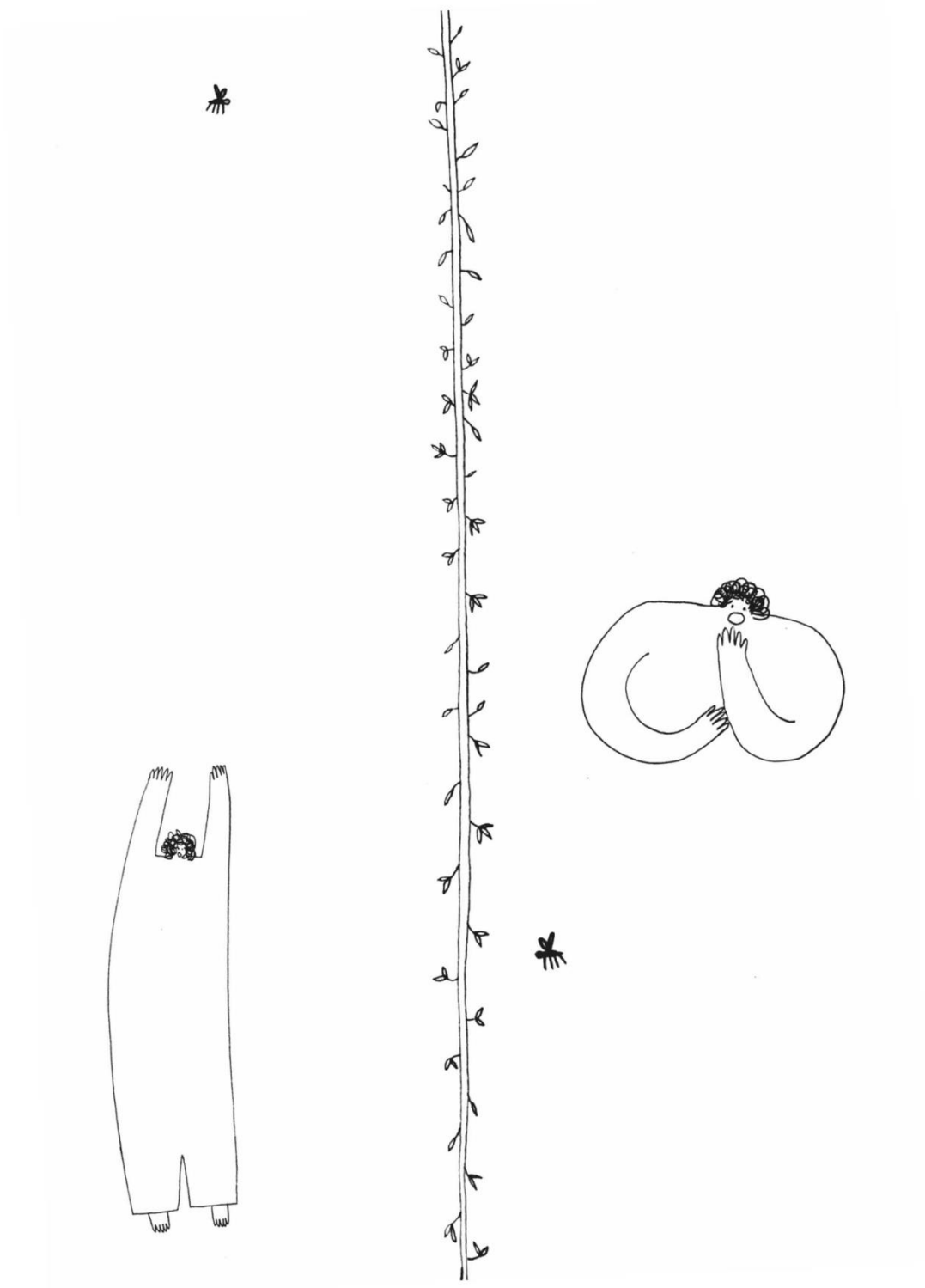
ですから、研究の際、(1) 存在しないものを探しに行かないように、あるいは(2) 世界の現実を無視しないようにするために、きちんとした存在論が必要なのです。もし、存在論に関して妥当ではない理論で研究を始めた場合、くだらないプロジェクトになってしまう危険性があります。

納得しましたか？多少は？存在論について考えることが重要であることに少しは同意してくれることを願っています。私が述べたことは、少し大胆で物議をかもしものだったかもしれませんが、感情的な反応があるときに物事をよりよく覚えている傾向があるとどこかで読んだので、ここまでの説明を事前に計画された教育戦略として主張したいと思います…まだあなたがこれを読んでいるなら、うまくいったのだと思います。

次のセクションでは、簡単なフレームワークを提示することで、あなたが聞くかもしれないすべての複雑な用語や概念を理解する方法を説明し、この迷路をナビゲートします。また、専門用語を使いすぎた時のために、末尾には使い勝手の良い定義が書かれた用語集もあります。でも、そうならないように気をつけます。

#### キーポイント①

- 存在論／オントロジーとは、つま先にハンマーを落としたときの現実のような、存在と実在の研究 (on-toe-logy) である。
- 認識論／エピステモロジーとは、知識の研究、つまりその幹が本当に叙事詩的なものかどうかをデイブがどうやって知っているのかという研究 (epic-stem-logy) である。
- 研究をする前に、存在論や認識論について考えるべきである。そうでなければ、存在しないものを探求したり、世界の重要な部分を見逃したりするというリスクがある。



叙事詩的な茎, デイブ  
Epic stem, Dave

## Section 2: 複雑すぎる物事

あなたは自分のことに夢中になったり、サンドイッチを食べたり、講義中に居眠りをしたり、指導教官と真剣な会議をしたり、クールな仲間がいればパブに行ったりしているかもしれませんが、ある時点で次のような質問を受けることになるでしょう。

「どのような哲学的パラダイムを用いるつもりですか？」

「あなたの存在論、認識論的立場は？」

大パニック。あなたは一体何というのでしょうか？おそらく、さまざまな哲学的立場を説明するのに使われるとんでもない数の言葉を聞いたことがあるでしょう。この中には、おそらく心当たりのあるものもあるはずです：主観主義、構成主義、解釈主義、現象学、解釈学、実証主義、客観主義、ポスト実証主義、ポスト・モダニズム、批判的実在論、批判理論、ポスト・コロニアリズム、プラグマティズム、構造主義…などなど、まだまだ続いていくでしょう。でも、あなたはどれを選びますか？

秘密を教えます。これらの質問をしている人は、おそらく、哲学的パラダイムが何であるかを理解していないでしょう。あなたと同じように、その人たちもすべての用語を混同しています。あなたのように、存在論と認識論を、病院での骨や幹細胞といった専門部門のようなものと考えています。あなたのように、その人たちもおそらく哲学の世界に足を踏み入れようとしなくて来たのでしょうが、それは、哲学の多くが不明瞭さのための不明瞭さ、複雑さのための複雑さ、困惑のための困惑のように見えるからです。

第二に注意すべきことは、これらの複雑な用語のほとんどが戯言であるということです。それらが役に立たないという意味ではありません。人はしばしば研究の伝統を参照しているので、その意味では有用です。しかし、異なる哲学的立場を理解したり、分類したりするためには、その用語は本当に役に立たないのです。

料理人が多すぎてスープが台無しになってしまった典型的なケースですね。多くの人があらゆる種類の研究をしていて、誰もが自分のものに新しい名前をつけたがる。これは、私たちが数多くの異なる用語を使って、異なる人々によって異なる方法で使われていることを意味し、何が何を意味するのかを理解することはほとんど不可能になります。

ああ！あまりにも複雑すぎる！もう一度始めましょう。赤ん坊をバスタブの水と一緒に捨て去る必要があります<sup>ii</sup>。実際、バスタブを取り払い、シャワーを設置する必要があります。今時、誰に風呂に入る時間があるのでしょうか？何が哲学的な立場を作るのかという基本に立ち返り、そこから概念を構築していく必要があります。そうしましょう。

---

[訳注 ii] 原文は We need to chuck the baby out with the bathwater. ことわざの「Don't throw the baby out with the bathwater 風呂の水と一緒に赤ん坊を捨ててはいけない（不要なものと一緒に大事なものを捨ててはいけない）」をもじって、「全てを一度捨て去ってしまおう」という表現がなされている。それに続くバスタブの撤去含め日本の文化的感覚からすると分かりづらい箇所だが、原文を尊重しそのまま訳出した。

さて、どのような哲学的立場であっても、私たちが考える必要があるのは次の 2 つのことだけです。

-存在論

-認識論

幸いにも、これらが何であるかを既に知っています。存在論は事物（つま先にハンマーを落とすこと）についてのものであり、認識論は知識についてのものです（それが叙事詩的な茎だとしてどうやって知ったのですか、デイブ？）

存在論に関しては、実在論と非実在論という 2 つの基本的な立場があります。その言葉通り、実在論者は宇宙が実在すると考えています。私の膝の上には本物の猫がいる。ドレスを着ないという私の決断は、実在するジェンダー構造に影響されている。もう一つは非実在論で、宇宙の実在性を否定しています。現在、ほとんどの非実在論者は、すべてについて非実在論的ではありません。彼／彼女らは、膝の上には本物の猫がいると思っているかもしれませんが、社会の世界には実在性がないと思っているのです。これについては後述します。

認識論にも 2 つの立場があります。ここでは、客観主義と主観主義という用語を使うことにしますが、その中間に位置する立場も確かにあります。客観主義的な立場は、世界についての知識を生み出すのに大きな障壁はないと仮定しています。ただ腰を下ろして、世界を観察すれば真の知識を生み出すことができる、というような。主観主義者の立場は、より懐疑的です。彼／彼女らは、私たちの知識は間違っている可能性がある、つまり私たちの知識は可謬的であると主張するかもしれません。彼／彼女らはまた、私たちが本当にただ座りながら、中立的かつ客観的な方法で世界を観察することができるのかを疑問視するかもしれません。その代わりに、主観主義者は、私たちの観察はすべて**理論に依存している**と主張します。

観察の理論依存性が何を意味するのか、例を挙げて説明しましょう。この種の話を話すには、実世界の例を使った方が簡単です。

さて、あなたがイギリスで難民がどのように扱われているかを見てきた研究者だと想像してみてください。客観主義者は、ただその世界に赴き、いかに難民が扱われているかを観察すれば、私たちの調査結果を書き上げることができると仮定しています。それだけで十分なのです。

しかし、主観主義者は、それがあまりにも単純な方法だと言うでしょう。私たちが誰を「難民」とみなすかは、理論に依存するものであり、中立的で客観的なものではありません。ある理論では、「経済的移民 economic migrants」と「難民 refugees」を大きく区別しているかもしれない。前者はどうかや経済的利益のために移住しているらしいが、難民は政治的理由で逃亡を余儀なくされた、というように。一方、他の理論では、この単純な二項対立を疑問視し、難民はどんな理由であれ、母国から逃げた人であると主張するかもしれない。後者の

アプローチは、したがって、はるかに広く「難民」を定義します。

この定義は、調査結果に極めて重要な影響を与える可能性があります。英国が政治的な理由で逃がれてきた人たちを適切に扱っていても、経済的な理由で移住してきた人たちに対してかなり非人道的な扱いをしているとしたらどうでしょうか。前者だけを見ていると、後者の非人道的な扱いを見逃してしまいます。知識を生み出す中立的な立場というのは存在しないのです。

ふう。そろそろみんな休憩が必要ですね。

最速のペンギンは時速 22 マイル [約 35km] で泳ぐことができることを知っていますか？  
とてもスピーディーですね。

よし、休憩終了。話を元に戻します。

これまでに見たことを踏まえると、どんな哲学的な立場においても存在論と認識論を選ぶ必要がある。実在論か非実在論か、客観主義か主観主義かを選ぶ必要がある。そうすれば、ビンゴ！あなたは哲学的立場を持つことができます。それは良い哲学的立場ではないかもしれませんが、とにかく一つの哲学的立場です。

このフレームワークを使って、他のすべての哲学的立場を理解することができます。検討する必要があるのは、以下のことです。

- 実在論者 (realist) なのか非実在論者 (irrealist) なのか？
- 客観主義者 (objectivist) なのか主観主義者 (subjectivist) なのか？

明らかに、これは 4 つの可能な組み合わせがあることを意味します。

1. 実在論／客観主義
2. 実在論／主観主義
3. 非実在論／客観主義
4. 非実在論／主観主義

私はこれらを以下のように呼ぶことにします。

1. 実証主義 (実在論／客観主義)
2. 批判的実在論 (実在論／主観主義)
3. 非常に混乱している (非実在論／客観主義)
4. 構成主義 (非実在論／主観主義)

3番は基本的に無視しても構いません。非現実主義者でありながら、客観的な知識を生み出せると考えるのは筋が通りません。存在しないものについて、どうやって客観的な知識を生み出すことができるのでしょうか？その組み合わせを排除しましょう。つまり、あなたが聞いたことのあるような複雑な用語は、基本的に以下のようにまとめることができます：**実証主義、構成主義、批判的实在論**。

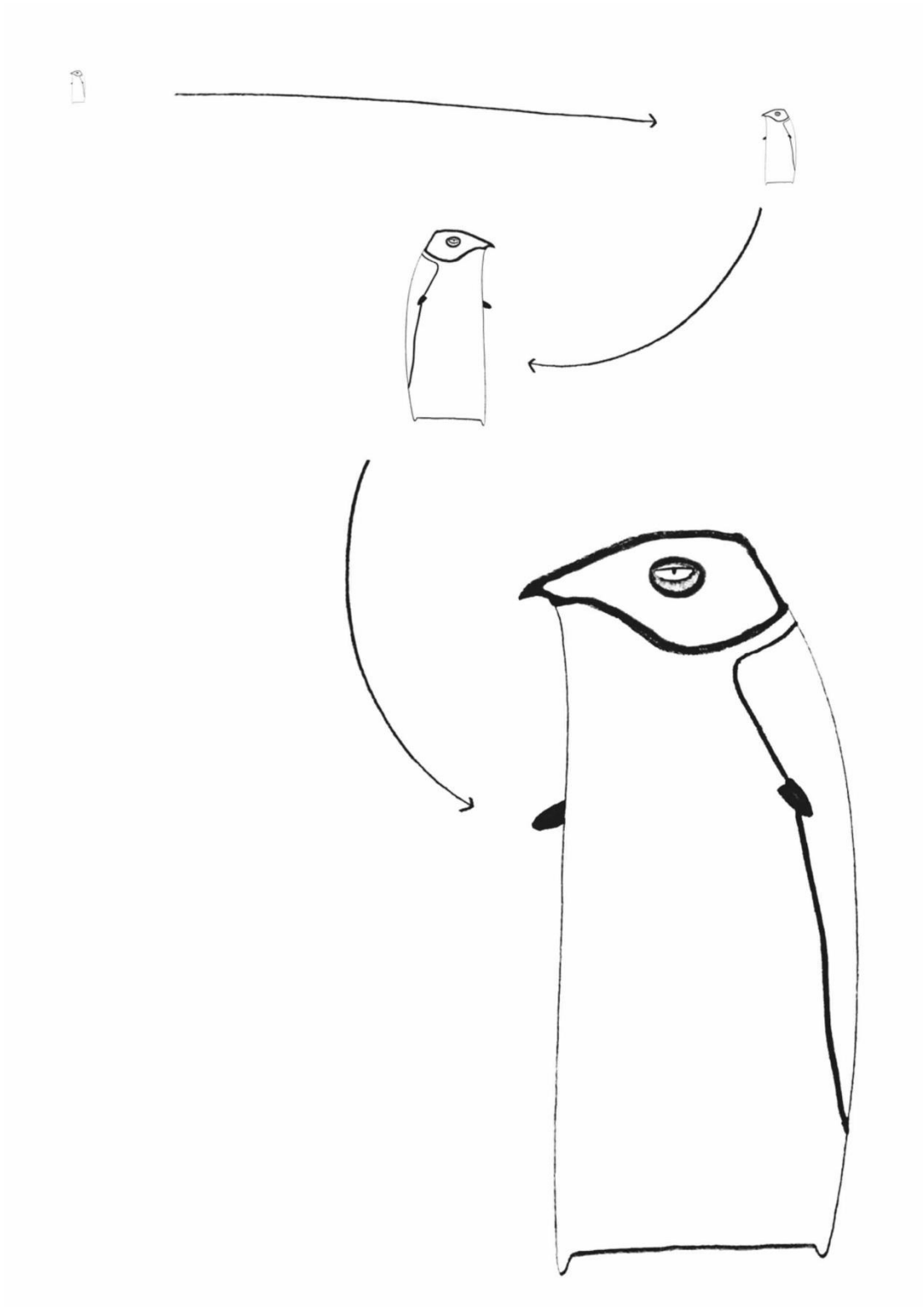
これだけ、この3つの用語だけです。次のセクションでは、誰もが批判的实在論者であるべきだという議論をする前に、それぞれの立場を説明します。

#### キーポイント②

-哲学的立場は、存在論（实在論または非实在論）と認識論（客観論または主観論）で成り立っている。

-その結果、3つの異なる哲学的立場になる：

- ・実証主義：实在論と客観主義
- ・構成主義：非实在論と主観主義
- ・批判的实在論：实在論と主観主義



スピーディーなペンギン  
A speedy penguin



### Section 3：実証主義、構成主義、批判的実在論とは何か？

存在論と認識論の分野を広く理解するためには、3つの基本的な哲学的立場だけで十分であることを見てきました。このセクションでは、それぞれがどのようなものなのか、そしてそれらが社会科学の研究にどのような影響を与えうるのかをお話しします。

#### 実証主義

最初の哲学的立場は実証主義であり、実在主義|客観主義の立場をとります。この立場は、次のように仮定します。

- 世界は実在するモノ、具体的には**普遍的な法則**で構成されている。
- 私たちは客観的な方法で知識を生産する。

では、まず世界には実在する普遍的な法則があるという存在論的な仮定から始めましょう。これはどういう意味でしょうか？ 普遍的な法則とは、基本的には、2つの事象がどのように関連しているかについての記述です。

社会科学の世界では、これまでもたくさんの例を見てきたことがあると思います。ここでは、いくつかのでっち上げの例を紹介します。

- 性別は、イギリスにおける16歳時の数学の得点のばらつきの12.489%を予測する ( $p < 0.05$ )。
- 家族の社会経済的地位は罪を犯す可能性の有意な予測因子であり、効果量は23.8977469% ( $p < 0.01$ )である。
- やかんから直接飲む習慣により、火傷被害者の変動の0.1%が予測される ( $p < 0.1$ )。

実証主義の存在論の問題点は、事象間に普遍的な法則が存在しないことであり、これは因果関係に対する浅薄なアプローチです。これをジェンダーと数学の点数の例で説明してみます。数学の成績は教育の質から、その人の自信、両親の学歴、空腹で学校に行くかどうかに至るまで、さまざまなことに影響されるでしょう。たとえジェンダーが成績に影響を与える要素の一つであっても、他のすべての要素と複雑な形で相互に影響し合うことになり得ます。

ジェンダーは自信と相互に作用するかもしれませんが。もし女の子たちが「心配しなくていいよ、数学はあなたには向いていないから」と言われることで、問題に取り組むことへのやる気をそがれているなら。ジェンダーはまた、親の教育的背景とも相互作用するかもしれません。もし恵まれない背景の生徒が、数学を勉強するように勧められなかった母親を持つ可

能性が高いのであれば、数学は女の子には向いていないという考えが固まっていくでしょう。ジェンダーは、教育の質（ある教師は主に男子に注力している）や、空腹（空腹であることは、すでにやる気を失っていた女の子にとっては転換点になるかもしれない）、およびその他の要因と同様の相互作用を持つ可能性があります。こうしたことはすべて人により異なり、また文脈にもよるので、ジェンダーと数学の成績についての普遍的な法則を定量化することは不可能です。これは世界がそのようにはなっていないからです。それは間違った存在論なのです。ユニコーンを探しているようなものです。

また、ジェンダーと数学の点数を結びつける普遍的な法則を見つけようというのは、因果関係についても浅薄な視点です。ジェンダーと数学の得点の間に関連性を見つけても、なぜ、あるいはどのような方法で、ジェンダーがテスト結果に影響を与えるのかについては、まったく何も教えてくれません。これがすべて教師によるジェンダーへの期待なのか、ロールモデルの欠如なのか、あるいは生物学的要因によるものなのか、見当もつきません。関連性を見つけても、なぜこれらの出来事が関連しているのかについては、ほとんど何もわかりません。実際には、出来事間のこの関連付けは、ジェンダーが因果関係にあることではなく、相関関係を示しているだけです。そして、諺にもあるように、相関関係は因果関係を暗示するものではありません。

そのため、このような普遍的な法則や事象の相関関係を追求する研究は、十分ではありません。そうではなく、研究は、原因とそれがどのようにして私たちが観察する出来事につながっているのかを教えてくれるはずのものです。

実証主義の第二の問題は客観主義的認識論から来るものです。この実証主義は、我々が単に世界を観察し、普遍的な法則についての知識を生み出すことができると仮定しています。これは、私たちの観察がいかに理論に依存しているかを認識していません。難民と経済的移民の例を思い返してみてください。例えば、「難民」であることが何を意味するのかを概念化するために理論に基づいて研究を行うなど、理論に依存した研究の方法を無視することで、実証主義的な方法は知識生産を誤って表現してしまいます。私たちは、単に何か客観的な立場から世界を観察して知識を生み出すではありません。この誤りの一つの結果は、実証主義は研究プロセスにおける内省の必要性を認識していないことです。私たちは、私たちが使用している理論について、それがどこから来たのか、それが誰の利益になり、誰を排除しているのかを考える必要があります。これは社会科学研究者としての私たちの責任です。

## 構成主義

第二の哲学的ポジションは、構成主義であり、非実在論|主観主義の立場をとります。それは次のようなものです。

- 大部分が非実在論者で、世界の实在性の大きな塊を無視する（穏当な構成主義）か、否定する（極端な構成主義）。
- 主観主義者であり、知識の生産は誤りやすく、理論に依存しているとみなす。さらに進んで極端な構成主義は、知識は理論によって決定されると主張するかもしれない。

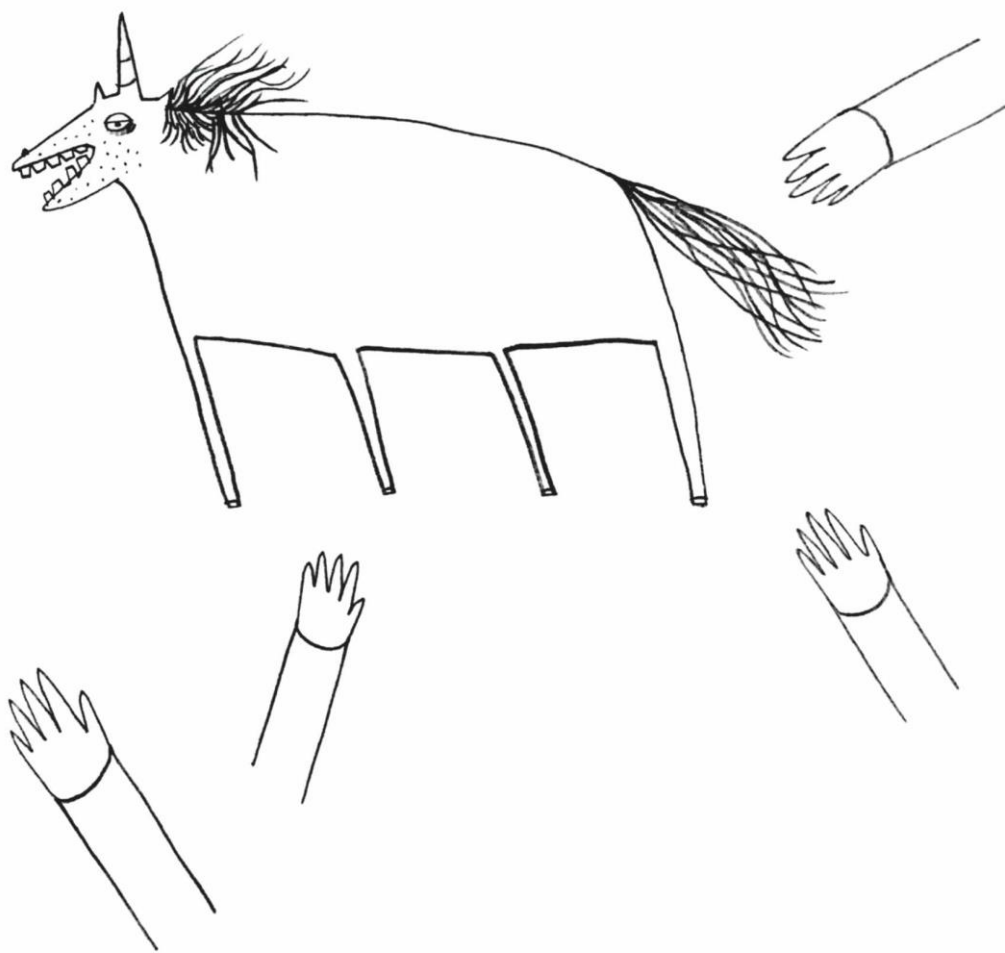
ある意味では、構成主義は実証主義から大きな一歩を踏み出します。それは普遍的な法則を探しに行くのは意味がないことを完全に認めています。

しかし、構成主義の問題は、その批判において行き過ぎてしまうことです。そうすると世界についての知識を生産する私たちの能力についてあまりにも悲観的になってしまいます。

社会科学において、構成主義は、言説や意味、あるいは人々の経験に焦点を当てるように奨励することで、研究に影響を与える傾向があります。これは、実証主義と同じ意味での誤った存在論ではありません。構成主義は、存在しないものを探しに行くことはありません。問題は、構成主義が世界をあまりにも狭い視野で見ていることです。

それは野生のユニコーンを追いかけるといっても、犬ではなく、犬のリードを散歩に連れて行っているだけだという信念のようなものです。アルディにはニンジンしか売っていないとほめかすようなものです。

私はあなたが人々の経験に焦点を当てた研究に出会ってきたと確信しています。多くの場合、これらの研究では、取り上げられることの少ないグループに「声を与える」ことについて語られています。これは人類学でもよく見られますが、他の学問分野でもよく見られません。



普遍的な法則を求めて  
Searching for universal laws

さて、疎外されたグループの声に耳を傾けるべきだという考えは、非常に重要なもので、人々の意見は役に立たないという実証主義的な研究から大きく前進しています。貧困の研究を考えてみると、この社会的な文脈を理解して関与せずに介入を設計するのではなく、研究プロジェクトの中の人々の世界観を理解することが必要不可欠です。

しかし、研究の終着点は、ストーリーや世界観の収集ではありません。物事について人々の意見を聞くことは重要ですが、研究はそこで終わってはいけません。貧困の研究は、貧困の中にいる人の体験を理解して終わりではありません。人々の生きた経験をもとに、なぜそのような立場に置かれているのか、そしてその障壁をどのように変えていくことができるのか、その原因を探っていく必要があります。

哲学的な構成主義は、研究プロセスの後半のステップ、すなわちストーリーから原因への移行を妨げる可能性があります。私が「哲学的」な構成主義と言ったのは、「構成主義者」と名乗るほとんどの社会科学研究者に自分たちの仕事について尋ねた場合、彼／彼女らは原因（の存在）を信じており、自分たちの研究が、人々が直面する障壁のいくつかを克服するのに役立つことを願っていると答えるだろうからです。このように、彼／彼女らは完全な哲学的構成主義者ではありません<sup>1</sup>。私には、実際に哲学的構成主義者である社会科学研究者はほとんどいないと思えます。哲学的構成主義的な立場は、[ストーリーや世界観の収集という]研究プロセスの早すぎる段階で立ち止まることを促し、社会科学研究に影響を与える可能性があります。私たちは言説や経験を超えて、原因にも目を向けなければなりません。

難民が言説の中でどのように表現されているかを分析する研究を想像してみてください。難民を病気と結びつけたり、難民と経済移民という二項対立がどのように作られているかを分析したりする研究を。とても良い、重要な研究です。問題となるのは、分析がここで止まってしまう時です。私たちはまだ次のような質問をする必要があります。

- この言説は世界にどのような影響を与えているのか？
- この言説により難民はどのような形で苦しんでいるのか？
- 影響力のある人々（政治家、ビザ担当者、国境警察）は、どの程度この言説を採用し、内面化しているのか、また、それが彼／彼女らの行動にどのような影響を与えているのか。

言説があるという事実は、世界における言説の影響を示すものではなく、この言説の影響と結果は研究者によって明らかにされるものです。哲学的な構成主義は、そのことが可

---

<sup>1</sup> 批判的実在論の創始者であるロイ・バスカーは、構成主義者が「認識論的誤謬」に陥る傾向があると述べています。つまり、存在に関する存在論的な主張が、知識に関する認識論的な主張に還元されてしまうのです(Bhaskar 1975)。構成主義者は、世界についての知識を生み出す人間の能力に懐疑的であるため（認識論的な主張）、世界が実在することを明示的または暗黙的に否定することがあります（存在論的な主張）。しかし、これは世界の実在性と、それに関する私たちの知識を取り違えているのです。

能であること、あるいは望ましいことであることさえ否定しており、研究者がこの次の重要なステップを踏むことを妨げてしまいます。

言説と言語のみに焦点を当てることで、構成主義は存在論を狭く取りすぎている、という考えを正当化することが可能かどうか、と皆さんは疑問に思われているかもしれません。そうするためには、社会の構造や原因が実在し、それらを社会科学が研究できるということを示す必要があります。

ボルトン・ワンダラーズ対マンチェスター・ユナイテッドの試合を見に行くとき、私はボルトンファンとして、マンチェスター・ユナイテッドとの関連性がある赤い T シャツを着るのを避ける傾向があります。土曜日の朝に何を着ようか決めているときには、赤とマンチェスター・ユナイテッドの連想から逃れられません。この社会構造は、ある時点での私の行為に先行しており、私の行動に対して因果関係がある、つまり私が赤を着ない傾向があるのです。

社会構造は私の行動と因果関係があるので、私は社会構造が実在することを知っています。鉄粉に与える因果関係によって磁場が実在することを知ることができるのと同じことが、社会構造にも当てはまります。赤とマンチェスター・ユナイテッドの連関は、私の頭の中だけに存在するものではありません。スタジアムによっては、相手チームの色の服を着ていると入れない所もあります。社会構造というものが本当に存在していて、その形成(変容)と影響を研究するのが社会科学です。

私はまた、構成主義のいくつかの極端な形態が、認識論的に問題のあるスタンスをとっていることにも言及しました。彼/彼女らは、知識生産は単に**理論に依存する**だけでなく、**理論によって決定される**ものであると主張しています。これは、世界が私たちの理論に影響を与えようことを否定し、完全な相対論に終始します。そうなると、ある理論が他の理論より優れていると言うことができません。

想像してみてください。パブに行って、バーの人が、「赤ちゃんは秘密の湖で作られた後、空飛ぶコウノトリによって運ばれてくる」という話をし始めたとしましょう。それは人間の生殖についての一つの理論でしょう。しかし、彼の説は、赤ちゃんが本当に秘密の湖で作られるかどうかを決めるものではありません。私たちの観察は理論に依存しているかもしれませんが、現実がどのようなものであるかを理論が完全に決定しているわけではありません。

### 批判的実在論

もし実証主義がユニコーンを追いかけ、構成主義が犬のリードを散歩に連れて行くだけなのだとしたら、批判的実在論はどんなことをもたらすのでしょうか？ 批判的実在論は、ライバルである両者の上に成り立っています。批判的実在論は、世界が実在し、知識の生産は誤りやすく、理論に依存しているが、理論によって決定されるのではないことを認めてい

ます。また、意味と言説は重要であるが、それだけが存在するのではないことを認めています。

このことについては、次のセクションで詳しくお話しし、なぜ皆さんが批判的実在論者であるべきなのか、ということ論じようと思っています。

ただ、最後に「プラグマティズム」について簡単に暴言を吐いて終わりにしましょう。アメリカには「プラグマティズム」と呼ばれる社会理論の一派があります。私の言っているのはそのことではありません。私が話している「プラグマティズム」とは、存在論や認識論といった哲学的な問題は研究者にとって重要ではないという信念のことです〔以下、この意味でのプラグマティズムは「実用主義」と訳す〕。

実用主義者が「どのような哲学的立場を取っても構わない、必要なのはそれが一貫性のあるものであることを確認することだ」といったことを言うのをよく聞きます。賭けても良いですが、大学での方法論のトレーニングのほとんどは、この意味での実用主義の立場を採用する傾向があるでしょう。もし非常に異なる分野の研究者でいっぱいクラスなのであれば、このような方法は理にかなっていません。そうでないならば、それは全くのゴミです。

その理由がお分かりになると思います。存在論と認識論のまともな理論がなければ、存在しないものを探しに行くかもしれないし、世界の大部分を誤って無視してしまうかもしれない。一貫性を持っているからといって、これらの問題がなくなるわけではありません。

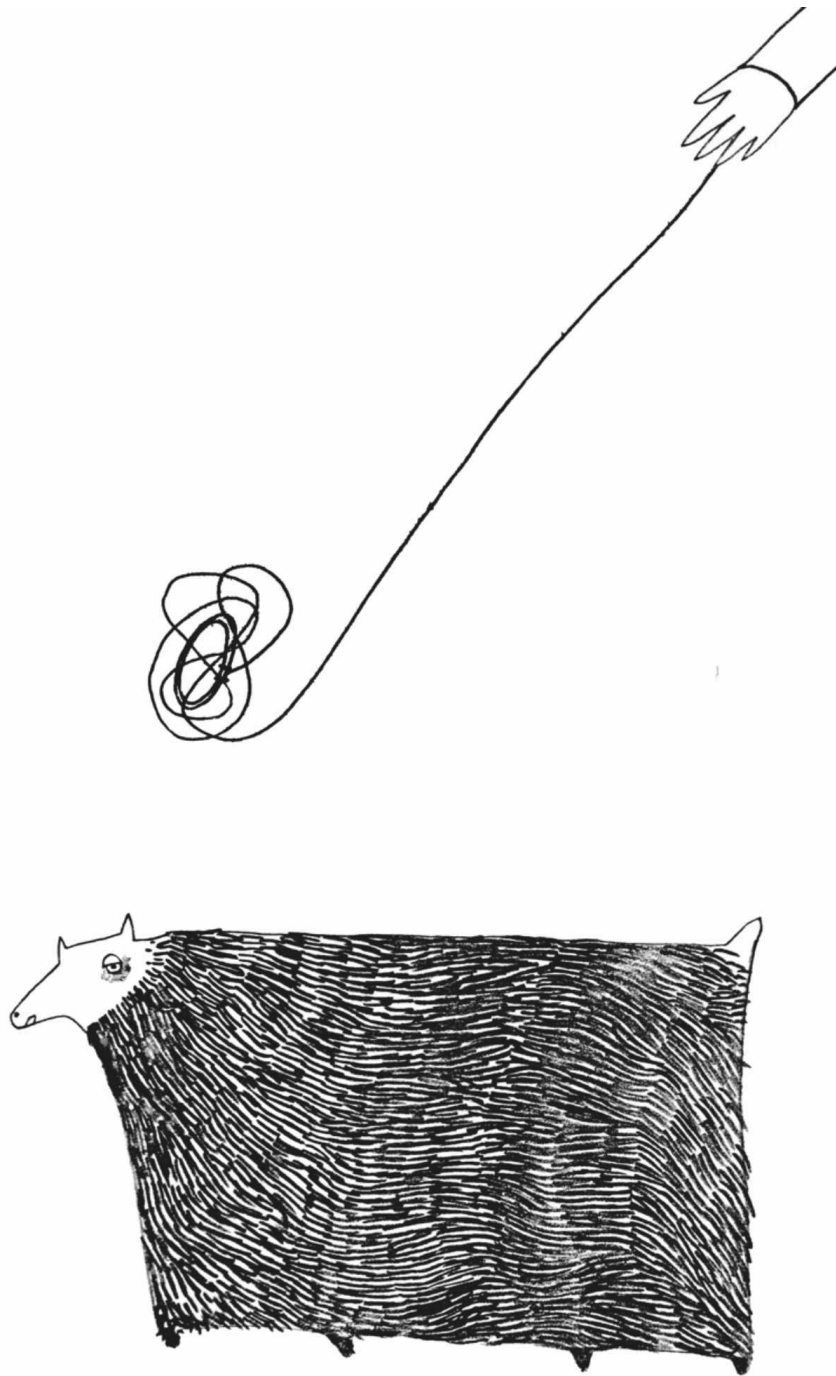
必要なのは単に一貫して適用されるというだけではなく、最良の哲学的立場です。私は、それが批判的実在論だと思っています。

### **キーポイント③**

-実証主義は、存在しない普遍的な法則を探しに行く。それは因果関係の非常に浅い視点を与える。

-構成主義は、研究者に意味や言説だけを考えることを奨励している。因果関係、社会構造、言説の影響を見るためには、さらに踏み込んでいかなければならない。

-実用主義（アメリカのプラグマティズムではない）は全くのゴミである。



犬のリードを持って散歩する  
Taking a dog-lead for a walk



#### Section 4：誰もが批判的実在論者であるべき理由

さて、私が今まで話してきた批判的実在論の哲学的立場とは何なのでしょう？そして、なぜそれが存在論と認識論の最良の理論なのでしょう？

まず第二の質問から始めましょう。

批判的実在論が存在論と認識論の最良の理論であるのは、それがリトロダクション〔遡及推論〕と呼ばれる本当に強力な方法で結論に到達するからです。

心配しないでください、リトロダクションは聞くほど複雑ではありません。それは基本的には、最善の説明を探す一種の論理です。例えば、小さな子どもの隣にチョコレートを置いたとしましょう。そして、1分後にチョコレートがなくなってしまう、リトル・ビリーの顔がチョコまみれだったとします。これをどう説明するのが一番いいのでしょうか？私たちは、「リトル・ビリーがチョコレートを食べた」と結論づけてもおかしくないでしょう。

批判的実在論の創始者であるロイ・バスカーは、世界の存在論がどのようなものでなければならぬかを解明するために、まったく同じような推論を用いました。いくつかの参考文献が必要ならば、彼の最初の2冊の本は、『科学と実在論』（1975年）と『自然主義の可能性』（1979年）です。

彼は次のように問いかけています。「科学的実験を可能にするためには、世界の存在論はどのようなものでなければならぬのだろうか？」

さて、バスカーは、科学的実験が知識を生み出すことができるという前提から始めています。彼はこの時点で、特に自然科学の実験について考えています。これはあまり議論の余地はありません。お茶受けにヒ素を食べたり、コンセントに指を突っ込まないようにしたりしている人であれば、科学的な実験が知識を生み出すことができるという考えには多分賛成でしょう。

「チョコレートがどうやって消えたのか、一番良い説明は何ですか」と尋ねたのと同じように、今度は「科学実験がどうやって知識を生み出すのか、一番良い説明は何ですか」と尋ねています。あるいは「科学的実験が可能であるならば、世界の存在論はどのようなものでなければならぬのか？」。

もし、これを形式論理で書いて欲しい人がいたら、こちらをどうぞ。

大前提	もし Q ならば、その時に限り P	もし世界が存在論的性質 X、Y、Z を持つならば、その時に限り科学実験は可能である
小前提	P	科学実験は可能である。
結論	したがって、Q	したがって、世界は X、Y、Z の性質を持っている。

存在論的な結論 X、Y、Z が何であるかは、ちょっと後で説明しますね。

批判的実在論が存在論・認識論の最良の理論である理由は、このリトロダクティブな論証

の強さにあります。欠陥があるとしても、わずかな場合のみです。小前提が間違っていると主張するのは少々ばかりしていることはすでに見てきました。私たちは皆、科学的実験が可能であり、知識を生み出すことを認めて生活しています。

批判的実在論者の結論が間違っている可能性があるもう一つの主な方法は、大前提の中に何かしらの怪しげな推論がある場合です。ここに問題がある可能性は確かにありますが、だからといって批判的実在論が無意味になるわけではありません。大前提の間違いを正すことは、批判的実在論の世界観をより良く説明することにしかならないのです。

批判的実在論は、大前提を修正したり、追加したりすればするほど強くなっていく「超人ハルク [訳注 マーベル・コミック刊行のコミックに登場する架空のスーパーヒーロー]」のようなものです。この例えは完璧ではありませんが、イメージはつかめると思います。

実証主義も構成主義も、このようなリトロダクションのような根底にある方法を持っていません。これは、実証主義が存在しない普遍的な法則を見つけようとすることに終始する理由の一部です。同様に、構成主義は、知識の生産が主観的であることについての真の洞察を持っていても、この批判が行き過ぎた場合に、世界の大きな塊の実在性を否定したり、知識は理論的に決定されていると主張したりと、問題に直面します。つまり、これらの哲学的立場は、存在論や認識論を批判的実在論ほどうまく説明することができないということです。

私は、批判的実在論のこの「方法」を共有して、その結論がどこから来ているのかをある程度理解してもらいたいと思いました。しかし、批判的実在論がどのようにこの方法を使って結論を導き出しているのかをお見せするのは、このガイドの範囲を超えています。批判的実在論の主な結論のうち、社会科学の研究者にとって特に重要だと思う 2 つの結論に焦点を当てた方が有益だと考えました。

1. 研究では因果関係の傾向性を探求すべきである。
2. 社会科学の研究は、エージェンシーと構造の両方を考慮しなければならない。

繰り返しになりますが、批判的実在論にはこの 2 つの結論以外にもたくさんありますが、このガイドは完全な導入を目的としたものではありません。すでに以下のような素晴らしい例があります。Collier (1994) *Critical Realism: An Introduction to Roy Bhaskar's Philosophy* や Gorski (2013) *What is Critical Realism? And Why Should You Care?* を是非チェックしてみてください。



リトル・ビリーと彼のチョコレート  
Little Billy and his chocolate

## 研究は因果関係の傾向性を探求すべきである

私たちはすでに実証主義が、存在しない普遍的な法則を探すことを見てきました。そして、構成主義は物語を探し、他の何かが存在することを否定する傾向があります。

批判的実在論は異なるアプローチを取ります。傾向として作用する因果メカニズムを探しに行くのです。

ごちゃごちゃした言葉のように聞こえるかもしれないので、説明してみます。そのためには、世界には3つのドメインがあると主張する批判的実在論の理論を紹介する必要があります。

- 経験のドメイン**：経験、つまり私たちが経験する出来事を含む。
- アクチュアルなドメイン**：[あらゆる] **出来事**を含む。すべての出来事が経験されるわけではない。例えば木は誰も見ていなくても倒れる。
- 実在のドメイン**：**因果メカニズム**を含む。メカニズムは、出来事を引き起こす構造である。例. リンゴがニュートンの頭の上に落ちる原因となった重力。

世界には3つのドメインがあるという考え方は、実証主義と構成主義の間違いを理解するための異なる方法を与えてくれます。実証主義は、実在のドメインではなく、アクチュアルな領域に原因を探します。構成主義は、原因がアクチュアルなドメインにはないことを認識するが、実在の領域が存在することを否定します。批判的実在論は、研究は実在の領域に原因を探すべきだと認識する唯一の立場です。

これをより詳しく見るために、性別と数学のテストの点数の例に戻ってみましょう。ということで、学生が数学の試験で得たスコアは出来事です。批判的実在論は、「どのようにしてこの出来事を説明するのが一番いいのか」、「この出来事を引き起こした因果メカニズムは何か」と問いかけます。このことは、ジェンダーの構造が数学の得点の原因になっているのか、それとも影響しているのかを問うことを促しています。

ジェンダーの構造が得点に影響を与える傾向があるとしたら、それはどのようになされるのでしょうか？ すぐに問題をあきらめてしまうよう誰かの自信に影響を与えるのか、ジェンダーによる期待のために教師からの注意が不足していることを通してなのか、生徒の学習者としてのアイデンティティに影響を与えるのか、それとも上記のすべてなのでしょう。

これが簡単なことではないことがわかるでしょう。しかし研究は簡単なものではありませんね！ 対照的に、実証主義は、「ジェンダーと数学の成績を結びつける普遍的な法則とは何か？」と問いかけ、事象間の普遍的な法則を見つけようと試みて失敗します。同様に、構成主義は原因を無視し、人々の数学に関する経験を記述することに満足し、研究プロセスにおいてそれ以上は進みません。

この例は、因果メカニズムが**傾向**として作用することも示しています。ジェンダーが数学の点数に与える普遍的な影響はないので、私たちが結論づけることができるのは、傾向があるということだけです。たとえば、ある研究で女の子は数学の成績が悪い**傾向**があると結論づけられたとしても、これでは将来の数学の点数を完全に予測することはできません。傾向があるだけなのです。

批判的実在論は、私たちの研究は、少なくとも部分的には、因果メカニズムと、それが傾向として私たちの観察する世界どのように影響を与えるかに注目しなければならないことを示しています。

### 社会科学の研究はエージェンシーと構造の両方を考慮すべき

批判的実在論はまた、エージェンシーと社会構造の両方が実在することを示すためにレトロダクティブな論証を用いている。これらは両方とも世界の存在論的特徴であり、関係性の中で共に存在している。これが、今から伝える批判的実在論の二つ目の大きな結論です。

エージェンシーを許容しない社会理論、例えば、ブルデューのハビトゥス理論のいくつかの解釈では、すべてのエージェンシーを排除することができるが、批判的実在論はそれが間違いであることを示している。社会的世界で何かを研究しているのであれば、私たちは代理性について考えなければならない。

同時に、批判的実在論は、社会構造が実在することを示している。社会構造が個々のエージェンツの行動、アイデンティティ、知識、行動に影響を与えるという意味で、社会構造は実在する。世界は、自由に行動してさまよう個人だけで構成されているわけではない。そうではなく、世界には諸個人がいて、世界には個々人が共に行動するときに、生じる社会構造があるのです。繰り返しになりますが、批判的実在論は、私たちの社会理論において個人だけを考慮することはクールではないことを示しています。経済学における合理的選択理論のいくつかのバージョンは、個人が結果を最大化することだけを考慮しています。これは欠陥のある世界のモデルです。それは社会構造が個人に与える影響を無視しているからです。私たちは完全に独断で決定ができるような個人ではありません。

批判的実在論は、私たちの社会理論がエージェンシーと社会構造の両方を考慮しなければならないことを示すだけでなく、それ以上のものです。私たちはこの二つを一緒に見なければなりません。

社会構造は個人の行動に影響を与える。そして、個人は、その行動を通じて、これらの社会構造を再生産したり、変容させたりすることができる。これらの社会構造は、その後、個人の将来の行動に影響を与える…そして社会構造を…社会構造は個人の…と続いていきます。

T シャツやサッカーの試合の例を思い出すと、社会構造と個人は互いに影響し合うので、一緒に考えなければなりません。

私はボルトン・ワンダラーズ対マンチェスター・ユナイテッドを見に行くとき、ボルトンファンとして、この色はマンチェスター・ユナイテッドに関連付けられているので、赤いTシャツを着ることを避ける傾向があります。私が赤いシャツを着ないという決断をしたのは、この既存の規範に影響されています。私は自分の行動を通じて、この構造を変容させようとするか(ボルトンのファンとして赤いシャツを着る)、あるいは再現しようとするか(青や白のTシャツに固執する)、どちらかを選択することができる。その結果、私の行動は、「赤はマンチェスター・ユナイテッドと関連がある」という規範に影響を与えたり、強めたりする可能性があります。

このように、社会構造と個人のエージェンシーは共に存在しています。私たちの研究では、それらを一緒に考えなければなりません。そうしなければ、存在論的な間違いを犯していることになります。

さて、皆さん、私たちはこの道の終着点に到達しました。

このガイドが、あなたにこの領域を紹介し、存在論と認識論に関する人々からの質問にあなただの道をナビゲートする方法を与えてくれることを願っています。また、熱心な皆さんのためにも、これが、批判的実在論を知るための出発点になることを願っています。

いくつか質問を残しておきましょう。研究を行う際には、自分自身に問いかけてみてください。

1. どの哲学が私の研究の根底にあるのか？
2. 私の研究は、傾向として作用する因果関係のメカニズムを探しているか？
3. 私は構造およびエージェンシーの両方を考慮したか？

この3つの質問をすれば、素晴らしいプロジェクトへの道が開けます。頑張ってください。

#### キーポイント④

-批判的実在論は、結論に到達するために強力なレトロダクションを用いた、存在論と認識論の最良の理論である。

-結論1：普遍的な法則や単なるストーリーではなく、傾向として作用する因果関係のメカニズムを求めるべきである。

-結論2：エージェンシーと社会構造は世界の存在論的特徴であり、関係性を持って存在している。この存在論を受け入れる社会理論を用いなければならない。



ハルク  
The Hulk

## 用語集

用語	定義
存在論 Ontology	物、または存在の研究。
認識論 Epistemology	知識についての研究。
哲学的立場 Philosophical position	すべての哲学的立場には、存在論（実在論者または非実在論者）と認識論（客観主義者または主観主義者）がある。
実在論 Realism	研究者から（少なくとも何らかの形で）独立した世界が存在するという存在論的立場。
非実在論 Irrealism	研究者から（何らかの意味で）独立した世界は存在しないとする存在論的立場。
客観主義 Objectivism	単に世界を観察して知識を得ることができるという認識論的立場。
主観主義 Subjectivism	世界を観察するだけでは、知識を生み出すことはできないという認識論的立場。その代わりに、知識生産は理論に依存したり、理論によって決定されたりする。
知識生産の理論依存性 Theory-dependent knowledge production	知識の生産は研究者の採用する理論に影響を受けるという見方。
知識生産の理論決定性 Theory-determined knowledge production	知識生産は、研究者が採用する理論によって完全に決定されるという見方。その結果、すべての知識は等しく有効であるという見方になる。
実証主義 Positivism	実在論／客観主義者の哲学的な立場。
構成主義 Constructivism	非実在論／主観主義者の哲学的立場。
批判的実在論 Critical realism	実在論／主観主義者の哲学的立場。
因果メカニズム Causal mechanism	ある事象の原因のこと。 <b>実在のドメイン</b> に存在する。
傾向性 Tendency	因果メカニズムは普遍的な法則ではなく傾向として作用する。（例. ジェンダーが数学の点数に影響する）



## 訳者謝辞

本ガイドの翻訳は、日本での批判的実在論の紹介プロジェクトの一環としてなされた。翻訳原稿のチェックにおいては、梶原はずき先生に非常に丁寧なコメントを頂いた。本ガイドの翻訳の一部は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）学際融合を推進し社会実装を担う次世代挑戦的研究者育成プロジェクトによる。